

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度第 4 回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域活動支援事業について（採択事業及び補助額の決定）（公開）

3 開催日時

平成 28 年 7 月 27 日（水）午後 6 時から午後 9 時 30 分まで

4 開催場所

上越市役所 402・403 会議室

5 傍聴人の数

4 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：安樂大、今井 孝、太田一巳、大竹明德（副会長）、加藤幸吉、金子隆一
 渋谷 俊（副会長）、田沢 浩、田中幸晴、谷 健一、新野武宣、野澤武憲
 橋本桂子、藤田晴子、星野 剛、松田光代、吉田幸造（会長）、吉田 実
 鷲澤和省（欠席 1 人）

・ 事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【野口係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長に議長を委任

【吉田会長】

- ・ 挨拶
- ・ 会議録の確認：大竹副会長に依頼
 議題「(1) 地域活動支援事業（採択事業及び補助額の決定）」に入る。事務局に説明を求める。

【野口係長】

- ・採点結果一覧表により説明

【吉田会長】

今の説明に質疑を求める。

【吉田実委員】

2期目の協議会では、せっかく提案していただいたので、減額してもできるだけ配分してきた。そのために、順位が上位でも減額できる場所があれば、最初に仮の減額案を作り、収支をやってみて問題なければ採択というかたちをとってきた。

春日区は今まで、自主審議は進まなかったが「少子高齢化」「安心安全」「観光振興」が重要ということでやってきた。少子高齢化では老人サロン活動と、少子化では子育て世代の青少年活動への補助をしてきた。春日区の委員が代わったからといって、助成額がゼロというは問題があるかと思うので、前会長として下位のものもできるだけ救済していただけるような採択と補助額の配分をお願いしたい。

【吉田会長】

幅広く採択した方がよいという提案については、意味のあることだと思う。

今年度の審査については、委員改選や質疑応答集の作成により採択時期が相当遅れていて、提案者から苦情もいただいているため、できるだけ提案事業の採択に結び付けたいという考えはある。他に意見を求める。

【金子委員】

吉田委員の意見に基本的には賛成だ。提案者は熱心に回答していただいているし、たくさんの提案が出たことは大変よいことだと思うので、できるだけ多くの提案を採択したいと思う。

【谷委員】

地域を元気にするには、2人の意見に賛成だ。

【鷺澤委員】

3人の方の意見に賛成だ。

【吉田会長】

それでは、採決する。全事業を採択するというのでよい方は挙手願う。

(過半数以上挙手)

過半数以上により、全事業を採択事業として、これから補助額を決めていく。補助

額の決め方について、委員に意見を求める。

【金子委員】

春日区は予算を大幅に上回っているので、提案団体は心配されていると思う。採択の時期も遅れてきているし、既に事業を実施している団体もある。この書類だけを見てもなかなか決められないので、三役の腹案があればお願いしたい。

【吉田会長】

全事業採択になったが、どのようにして補助額を決めるかが課題だ。三役で打ち合わせを数回行って来た中で、腹案を用意してある。皆さんに目を通していただいて、意見を聞きたいと思う。その案でよければお配りしようと思うが、どうか。

【加藤委員】

多数決なので従うが、意見として言っておきたい。全部の事業を採択するのは反対だ。採点結果の一覧表は20人の意見の結果だと思う。それを無視して、全部を採択するというよりは、一覧表を参考にしてやるべきだと思う。

【吉田会長】

先ほど全事業を採択することとして決定した。多数決を尊重したいと思う。

補助額をこれから決めるが、それはこれからどうなるか分からない。

【田沢委員】

配布する資料は、どのような主旨で作成されたのか説明はあるのか。

【吉田会長】

もちろんだ。配ることを許されるのならば、事務局から説明していただくが、賛成の方は挙手願う。

(過半数挙手にて配布)

では、事務局に説明を求める。

【野口係長】

・参考Aと参考Bにより説明

【吉田会長】

今の説明の中で出てきた金額では事業が遂行できない等で辞退された場合は、2次募集をするかしないかも審議する必要が出てくる。金額の範囲以内で操作できるものなら皆さんの意見を聞きたいと思う。委員に意見を求める。

【野澤委員】

内容は理解できたし、合理的なものだと思う。この案を組み替えるとなると收拾がつかなくなると思うので、この案で採決してよいと思う。

【太田委員】

上位の事業は地域の中でも色々な面で活躍されている方が代表で、名前が知れ渡っている方なので、上にくるのは仕方ないとは思う。私は、青少年健全育成のための事業が気になる。子どもたちの活動の頑張りや、結果が見えなかったり、知らない方も多いと思う。だが、子どもたちは色々な活動して頑張っているなので、今後は子どもたちが大会に出た後の結果報告をできる場もあると、活動の張り合いにもなる。指導者も自分の子どもはいないのにボランティアで指導してくださっているので、その辺も考慮していただけたらよいと思う。

16位の春-4は32パーセント、19位の春-11が11.6パーセント、20位の春-16が29.9パーセントのカットになっているが、順位が上の事業でカット率が高いのは、疑問がある。順位付けしてある意味がないと思う。同様の事業で、しかも順位どおりにカット率が多ければよいが、順位関係なくカット率が違うことには納得できないが、いかがか。

【加藤委員】

太田委員の青少年育成について、仰ることはわかるが、発言が提案者側のものになってしまっていると思う。私も過去に幼年野球の監督をしたことがあるので、事情も分かるが、この場では相応しい発言ではないと思う。

【田沢委員】

この結果は公になるのか。

【野口係長】

提案の順位と、それに係る助成額の一覧は公開される。

【田沢委員】

序列の整合性を求められたときに、協議会としてはどのように回答すればよいのか。

【野口係長】

事業費の削り方の観点、カット率が順位に反映されていないとの指摘があったが、事業が支障なく円滑にできるように考えて、必要な物は残して、カットできる部分をカットしている。カットする視点として、お金中心というよりは、事業の中身中心で見ている。

【田沢委員】

そういうことが提案者側に伝わればよいと思うが、その辺が事前に言ってから発表するのか、発表されてから団体が知ることになるのか。

【野口係長】

本日、事業採択して助成額を決めていただいた後で、団体に結果を報告することになる。

【加藤委員】

カットすると事業ができない例を挙げてもらえるか。

【吉田実委員】

過去の事例だと、金額を決める時に順位とカット率が逆転現象は起きてしまったことがある。事業項目を削る内容となって、金額が変わっていく。順位が上なのにカット率が高い場合や、金額が少ないことも実際あった。内容をよく考慮すると、金額に差がでてくる事情もある。

【加藤委員】

具体的にどうなのかを聞きたい。

【山田センター長】

春-4、春-11でいうと、春-4のカット率が高いのはユニフォーム代金だ。採点の際の意見にユニフォームに対して厳しい意見が多かった。今後の採択方針にも関わってくるが、ユニフォームは保護者等が買うべきではないかという厳しい意見も結構多かったのでユニフォーム代金を削った分カット率が高くなった。春-11のバスケットや春-16の野球はユニフォームは挙がってきておらず、道具類等の提案だったため、カット率が低くなった。

【田中委員】

上位事業で提案者が減額してもよいと言っているのに減額しないのは、どうかと思う。減額して青少年育成事業に回してあげたらどうか。

【吉田委員】

上位で削られてもよいという金額は、最上位はすでに完了した事業であり、減額も実績に合わせているためこれ以上無理なので、2位以下の事業で削れる金額があれば微調整する方法もある。

【星野委員】

田中委員の言われたように、各団体が減額してもよいといった金額を絞りだして、金額を挙げてきてくれたと思う。21事業の皆さんになるべく配分したいという趣旨であれば、1位は既に終わっているのも無理だが、上位でも各団体が下位事業へ回してあげたらよいと思う。

2つ目は、春-12だが、路面の文字が消えているので道路課に問い合わせをしたら、市ではセンターラインと外側線は行う。それ以外は、県警の費用で出してもらうことになっているとのことだった。重要なので誰かがやらなければいけないが、本来、県が支出すべきなのに、上越市で負担しなければいけないのか。その課題は来年度に持ち越していただきたい。この団体は、10万円減額してもよいというならば、そうしていただければよいと思う。

3つ目は、春-2だが、立派な組織なので決算の書類の提出を求めた結果、前年度の決算は神輿の修理代金として10万円繰越している。その中から3万6,000円出せるとなっている。組織の中でそういう予算を計上しているのなら、減額していただければよいと思う。

【野澤委員】

星野委員の発言に間違いがあるので、指摘する。市がやるのは、外側線とセンターラインはやる。止まれ文字、停止線、十字はやらない。

【星野委員】

道路課に確認した内容だ。

【野澤委員】

それは間違いだ。県がやるのは、止まれ文字だ。市の道路課ではそのような予算が今はないのだ。県がやるのは止まれ文字、停止線、横断歩道だ。今回提案したのは、町内会から要望があって警察と協議して、警察の予算でできないものを提案したのだ。

【星野委員】

やらないと危ないということなので、やっていただきたい。

【鷲澤委員】

従来の手法として全く違うのは、三役で資料を作って説明があったことだ。これは、あくまでも話し合いをした“たたき台”である。これをすぐに採決したらどうかという意見があったが、それはおかしい。お互いに意見や質問を出し合い、このくらいが適当ではないかと一つひとつ決定していくのが大切だと思う。

【吉田会長】

これから、それぞれの項目に入るので、それで理解していただきたい。

【鷺澤委員】

・採択のやり方を説明

【吉田会長】

いくつか意見が出たが、参考B案を基に各項目の金額を決めてよいと思う方は挙手願う。

(過半数挙手)

これより10分休憩に入る。その間に、皆さんでそれぞれの考えをまとめていただきたいと思うが、どうか。

【吉田実委員】

次に予定があるので、このまま続けていただいてよい。

【吉田会長】

他の委員は休憩なしでこのまま続けてよいか。

(「よし」の声)

予算が余れば、2次募集や、市に返納する未執行分も併せて考えて、補助額を決定していただきたい。

【加藤委員】

参考B案は、三役で練られてきたわけだが、とても有意義な事業なので、減額してでも事業を支援していくという考えで出されたのだと思う。内容を吟味して考えられたのだと思うので、この案でよいと思う。

【吉田会長】

各項目の金額が提示されているので、金額を一つひとつ決めていきたいと思うので、御協力をお願いします。これから配布する資料について事務局に説明を求める。

【野口係長】

・参考Bにより説明

【鷺澤委員】

これを今突然配られて、これを我々に検討しろと言われても、できない。

【今井委員】

全事業採択案の中で、減額できないと回答とあるのは、理由が書いてあるのと書い

ていないのがあるが、ここに書かれていること以外は分からないのか。

【山田センター長】

春-10については減額できない。理由としては、防犯パトロールを組織的、継続的に実施するためには各町内10から15セットの防犯ベストと帽子が必要だからとのことだ。

【今井委員】

分かった。

【吉田会長】

一つひとつやっていった方がよいか。皆さんはどう考えるか。

【吉田実委員】

提案だが、従来はとりあえず仮の金額を決めた。最後までやって、最終的に微調整や本決定していた。上位は引ける金額を引かずに、そのまま満額認めて、減額した方がよいという意見があれば、調整意見を聞いていけばよいのではないか。

【田沢委員】

トータルをどう出すか。

【吉田実委員】

それはまた最後にやればよい。

【吉田会長】

一つずつ助成額を決めていくということによいか。

(「よし」の声)

【野澤委員】

せっかく事務局が作ってくれたのだから、この案で決定したらいけないのか。

【山田センター長】

突然お配りしたので、分かりにくいところがあると思う。今までの委員さんは仮決定して減額か満額か決めていった。今回は参考メモというかたちでたたき台にしていただけ、中身は委員から議論して決めていただく。

【吉田会長】

順位が1位の事業から始める。春-5は事業が既に終わっているが、6万5千円の減額で仮決定してよいか。

(「よし」の声)

1番最後に予算が合うかどうか計算しなければいけないので、仮決定とする。

【鷺澤委員】

そんなことをしていったら夜中になる。ただ単純に、1割カット、2割カットというわけにはいかないからだ。

【今井委員】

全部を一律に1割カットとかも一つのアイデアだが、傍聴されている中に提案者の方もいらっしゃると思うので、やっつけ作業で納得していただけるのかが不安だ。今日この案をいただいて、本音では持ち帰り考える時間が欲しい。個人的には、“えいっ”と採択したものを、胸を張って提案者に“どうぞ”とは言えない。

【吉田会長】

今会議でこれを決めないと、各提案者の方が前に進めないのだ。今回、決めて提案者に連絡を入れることが最速で必要なことなので、ご理解いただきたい。

【今井委員】

皆さんが納得されているのならよい。

(「よし」との反応)

【田中委員】

逆戻りになるかも知れないが、提案者から減額してもよいというものを処理しなければ終わらない。減額してもよいというのをチェックして、それを青少年とかにプラスしたらどうか。

【田沢委員】

全体の金額だけあって、事業をやるための仮の金額も出ていないのに、事業を全部やろうと決めたのはどうか。減額しても、その中でできるかどうかを本来見なくてはいけないのではないか。相当吟味していかなくてはいけない。

【吉田会長】

それは既に先程決めたことだ。

それでは減額をしてもよいという提案者もいるのだが、その減額をすることがよいかどうかについて皆さんの意見を聞く。また、減額された時にどの程度お金が余るか。その余った分をどこに振り分ければよいかを協議すればよいと思うが、どうか。

【野澤委員】

専門家の事務局が資料を精査して作られた参考B案だと思う。事務局は全ての事業内容を理解しているが、我々委員は全ての事業を理解していることは言い難い。なん

だかんだといっても收拾つかない。よその地区ではもう審査採択が終わっているのに、決まらなかったら非難される。この案に賛成か反対かで採決を採ったらどうか。

【鷺澤委員】

「専門家」とはどなたのことを言うのか。

【野澤委員】

事務局のことだ。我々は素人だ。

【鷺澤委員】

我々は素人だが、色々なことは質問して議論してきた上でやるべきだ。委員全体の考え方を重視していただきたい。

【吉田会長】

鷺澤委員が言う質問事項を網羅したものを、事務局でまとめてくれているものが、資料になっている。

【今井委員】

野澤委員の意見に言っておきたいのだが、正副会長が腹案を考えたということは合理的だ、ということでは理解できる。でも、正副会長腹案で良いと認めてしまったら、春日区地域協議会は必要ないということにつながる。正副会長の腹案は一つの案であって、我々が議論したということ、意見を出したということが必要だ。それが必要ないのであれば、あなたはここから立ち去らなければいけない。

【野澤委員】

質問事項についての回答を元に点数を付けたのだ。その点数に基づいて正副会長が腹案を作ったので、我々の意見は集約されている。

【今井委員】

意見が入っているからよいのではないか、ということだが違うと思う。先程センター長が腹案はメモだと言っていた意味を考えて欲しい。本当なら資料の「額の調整による全事業採択案」の列はなくて、採点結果を見て、“さてこれをどうしましょう”ということをする日だと思っていた。自分の点数しか知らないのに、採点結果を初めて見たのに、この案をみて「素晴らしいからどうしましょう」とは言えない。お金が絡むので明日集まっても、明後日集まってもよいと思うので、急いで決めなくてもよいと思う。

【太田委員】

野澤委員に何うが、この三役の案を採択した場合に、提案者から減額理由を聞かれたら答えられるのか。

【野澤委員】

答えられる。

【大竹副会長】

発言の際は、挙手と名前をお願いします。今井委員にお願いだが、「立ち去れ」などと個人的に中傷することは止めていただきたい。

【今井委員】

中傷したわけではないし、個人を責めているわけではない。お金を扱うのだからそれくらい喧々囂々けんけんごうごうしないといけないと思う。多少、言葉使いを改めようとは思う。もう少し話合いは必要だと思う。

【加藤委員】

委員同士での中傷誹謗は、会議の主旨ではないと思う。太田委員の言われたように、提案者から各委員個々に理由を求められることはない。そこははっきりしておきたい。

【田沢委員】

進め方の提案だが、一つは優先順位でAランクは何パーセント、Bランクは何パーセントという決め方もできるのではないか。二つ目は、正副会長案の中で、割り振ってみるのもよいのではないかと思う。

【吉田実委員】

途中まで採決を採って進めてきたので、議事進行を事務局で調整して元に戻してもらった方がよい。承認したところから議事に戻ってもらえるか。

【吉田会長】

春-1に入る。4万円減額をしてもよいと返答があるが、どうするか。

【吉田実委員】

4万円減額が可能ならば、減額を提案する。

(「意義なし」の声)

【吉田会長】

4万円減額とする。

春-9は、減額なしということだが、よいか。

(「意義なし」の声)

春-10は、満額でよいか。

(「意義なし」の声)

春-7は、6万6,000円の減額可能とあるが、よいか。

(「減額よし」の声)

春-8は、減額できないとのことだが、満額でよいか。

(「意義なし」の声)

春-2は、3万6,000円の減額可能とあるが、減額でよいか。

(「減額よし」の声)

春-13は、2万9,000円の減額可能とあるが、よいか。

(「減額よし」の声)

春-12は、10万円の減額可能とあるが、よいか。

(「減額よし」の声)

春-21は、13万円の減額可能とあるが、よいか。

(「減額よし」の声)

春-15は、12万2,000円の減額可能とあるが、よいか。

(「減額よし」の声)

春-20は、2万円の減額可能とあるが、この事業からは「不適合」と付けた人数が5人いるラインのところになるが、いかがか。

【田沢委員】

ラインより下であっても、2万円減額でよいのではないか。

(「減額よし」の声)

【吉田実委員】

参考B案の4万2,000円の減額がよいと思う。

【吉田会長】

2万円の減額と、4万2,000円の減額があるので、採決を採る。

(「4万2,000円の減額」が多く挙手)

春-6は、24万円減額可能とあるが、よいか。

(「減額よし」の声)

春-3は、減額不可能となっているが、参考B案では1万7,000円減額してもらいたいということだが、どうか。

(「参考B案でよし」の声)

春-22は、25万1,000円の減額可能とあるが、参考B案では50万2千円減額してもらいたいということだが、どうか。

(「参考B案でよし」の声)

春-4は、5万4,300円の減額可能とあるが、参考B案では14万7,700円減額してもらいたいということだが、どうか。

(「参考B案でよし」の声)

春-19は、3万8,000円の減額可能とあるが、参考B案では105万8,000円減額してもらいたいとのことだが、どうか。

【星野委員】

減額理由で、「1団体から複数提案のため他団体事業を優先する」とあるが、春日山城跡保存整備促進協議会も2つの提案が出ているので、この表記は相応しくないから削除したらどうか。

【今井委員】

矛盾しているから削除した方がよいという意味だと思う。削除する以外に、春-5、春-9も同様だが、順位が上位だからそちらは不問にするという考えでもよいと思うがどうか。

【野口係長】

今井委員の仰るとおり、結果的に下位の事業の中で、8割ほどカットする理由として黒文字を入れた。

【吉田会長】

今の説明で分かったか。

【星野委員】

上位だったら2つ以上出しても構わないが、下位だったら2つ以上については調整させてもらうという意味でよいか。

【吉田会長】

そういう意味ではないと思う。本当は、同じ団体でなら1つに絞って提案されたほうがよいとは思いますが。

【星野委員】

そのままでよいので、今の私の意見は無かったことでよい。

【吉田会長】

春-18は、22万2,000円の減額可能とあるが、参考B案では112万5,000円の減額をしてもらいたいとのことだが、どうか。

(「参考B案でよし」の声)

春-11は、6万6,000円減額可能とあるが、参考B案では子どもたちのことを考えて5万4,000円の減額とあるが、どうか。

【加藤委員】

6万6千円でよいと思う。

【田沢委員】

今まで、減額してもよいという団体を減額していないところもあるのだから、そういうところにいったらどうか。

【吉田会長】

それは、あとで調整するので、春-11の減額金額を決める。

【鷺澤委員】

提案者からの減額分は了解したということで、6万6,000円でよいと思う。

【吉田会長】

では、春-11は、6万6,000円の減額とすることでよいか。

(「減額よし」の声)

春-16は、8万5,000円を減額可能とあるが、どうか。

(「減額よし」の声)

春-14は、1万円の減額可能とあるが、参考B案では10万4,000円の減額してもらいたいとあるが、どうか。

(「参考B案でよし」の声)

【吉田実委員】

プロジェクターやスクリーンは相応しくないということはそのとおりだと思う。

【吉田会長】

それでは、集計するので暫く休憩をとる。

— 休憩 —

【吉田会長】

今程、皆さんで出した案で金額を足すと、990万7,000円となり、19万3,000円余って

いる。今の減額の結果でよければ、残った金額を2次募集するか、市へ返納するか協議していただきたい。

【田中委員】

個人的には、返納すべきだと思う。

【吉田会長】

残額は市へ返納するか、減額した中で再配分するか、2次募集するか採決する。

再配分がよいと思う方は挙手願う。

(過半数挙手)

それでは、再配分することとする。19万3千円をどのように割り振るか。

【星野委員】

減額率の高い事業の提案者に確認してもらい、三役で振り分けてもらったらどうか。

【渋谷副会長】

星野委員の発言だと、また振り出しに戻ってしまう。時間が掛かってしまい、この場で決定ができなくなる。

【星野委員】

分かった、発言を取り消す。

【金子委員】

提案だが、減額したところに、残額から1万円ずつ上積みしていくと、全部で18万円くらいになる。

【吉田実委員】

減額率の高い春-19は、新しい試みをしているので、残額を全て配分してあげたらどうか。

【太田委員】

高齢者や子どもたちのところに割り振ったらどうかという話があったので、バレー、バスケット、野球に割り振ったらよいと思う。

【吉田会長】

減額の理由に、ユニフォームは個人の持ち物であるということがあるし、他のものは金額に載せてあると思う。

【吉田実委員】

昔、ユニフォームは認めている例がある。これは、ユニフォームも先輩から後輩に

引き継いでいるものなので、認めたものだ。

【太田委員】

このチームに関しては、ユニフォームはチームで管理をして引き継いでいるとの話だ。

【加藤委員】

過去に認めていた例はあるかもしれないが、本来、ユニフォームは個人持ちのものだ。税金でユニフォームを買ってあげる必要はないと思う。残額をゼロにしなければいけないのならば、三役で決めてもらえばよいと思う。

【田沢委員】

公金なので、どこに付けるかとする、それぞれ意見が出てくると思う。本来は返すべき資金だということを前提とすれば、均等に配布したらよいと思う。

【吉田会長】

19万3,000円が余っているので、均等に1万円ずつ配るか、減額率が大きかった事業に再配分するか、三役に一任していただくか、子どもたちの関係する3事業に再配分するかで決を採る。

均等に配分するという方挙手を願う。

(7人挙手)

子どもたちのスポーツ関係の事業に振り分けるという方は挙手願う。

(5人挙手)

三役に一任する方は挙手願う。

(3人挙手)

減額率の多かった春-19に配分してあげたらいいという方は挙手願う。

(3人挙手)

採決の結果、1万円ずつ均等に分けるということで決まった。

これで、配分額が決定したということでよいか。

(「よし」の声)

1万円ずつ配布するところを確認する。春-1、春-2、春-3、春-4、春-6、春-7、春-11、春-12、春-13、春-14、春-15、春-16、春-18、春-19、春-20、春-21、春-22の全17事業になる。予算は2万3千円残るが、それについて採決を採る。

2次募集せずに返納した方がよいと思う方は挙手願う。

(11人挙手)

それでは、2次募集しないことに決まった。

【今井委員】

今後の流れについて質問だが、これからは提案団体で「いない」となった場合はどうなるのか。

【吉田会長】

減額されたら事業ができないということで、いないということで辞退された場合は、2万3千円に上乗せして返納するということだ。

【野口係長】

次に、附帯意見について確認させていただきたい。今後、提案者宛に結果通知書という内定通知を送付するが、事業を執行するにあたり、協議会は附帯意見を付けることができる。付帯意見は、事業を執行するに当たり、足かせのようなものになり、付帯意見が守られなかった場合には補助金の一部や全額を返納していただくこともある。付帯意見を付けるとしたら、慎重にご検討させていただきたい。付帯意見を付けるかどうかの意見を会議で決を採っていただきたい。

【吉田会長】

付帯意見は不要でよいか。

(「よし」の声)

その他、次回会議日程を決める。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：8月23日（水）午後6時30分から 上越市役所402・403会議室
- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-5111（内線 1449、1547）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。